

公益財団法人大倉精神文化研究所 令和3年度事業計画

令和3年は、創立者大倉邦彦の没後50年という「節目の年」であり、翌年には研究所創立90年を控えています。令和3年度事業計画は、「世の為に田を耕す」という創立者大倉邦彦の理念及び定款第3条の目的を踏まえた事業計画であると同時に、「節目の年」に相応しい事業を盛り込んだ事業計画としても仕上げられています。

計画の柱は、定款第4条で謳っているとおり、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備であり、この柱に沿って事業を着実に推進し、文化の振興に寄与します。

なかでも、「節目の年」に相応しい事業として、子ども向けのマンガ『大倉邦彦物語』の刊行、「子ども向け精神文化図書コーナー」の開設、ホームページの全面改定等に力を注いでいきます。

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるところです。当財団は、新型コロナウイルス等対策特別措置法の趣旨を踏まえ、事業の実施に際し、今後も適切な措置を講じていきます。

1 精神文化の研究及びその成果の普及

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料の収集を行っています。

研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。これを天から与えられた自らの使命と考えた大倉は、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたいと考え、当財団を設立しました。

大倉邦彦は、自らの使命を実践して社会に貢献するためには、清らかで強い心を持たなくてはならないと説き、当研究所で修養会等を開催しました。

令和3年度も、「こころを磨き からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道、医学等様々な分野から心身の磨き方について研究を進めます。その研究成果は、次に掲げる大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第68輯（4頁「(4)印刷物の編集及び発行・電子情報の発信」参照）で特集を組みます。

また、新たに「実業家の教育・福祉活動」をテーマとした研究を始めます。

【大倉山講演会】

令和3年度は、大倉山講演会を4回（4月、5月、6月及び令和4年3月）開催します。大倉山講演会は前年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を延期したため、4月から6月の講演会については、前年度予定していたテーマ及び講師により、改めて開催します。いずれも大倉山記念館の指定管理者との共催事業として、横浜市大倉山記念館のホールで行う予定です。

開催日・場所	演題	講師
4月17日(土) ホール	井上円了の活動主義について	東洋大学前学長 竹村 牧男
5月15日(土) ホール	魂をうちだす鍛冶のころもて —大倉山修養会の目的と実践—	当財団研究員 星原 大輔
6月19日(土) ホール	キリスト教の瞑想 —聖イグナチオの霊操とヴィパッサナ—瞑想の活用—	イエズス会霊性センター「せせらぎ」所長 柳田 敏洋
令和4年 3月19日(土)	実業家の孤児院事業（仮題）	当財団客員研究員 峯岸 英雄

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であることを説き、当財団を設立しましたが、その一方で東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱していました。

令和3年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めていきます。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めます。次に掲げる公開講演会や今昔建築サロンは、東西文化融合の研究成果の一環として開催するものです。

【公開講演会】

東亜同文書院の後身である愛知大学との共催による公開講演会、岡倉天心市民研究会との共催による公開講演会、大倉山記念館指定管理者との共催による今昔建築サロン等を開催します。

また、令和3年度はマンガ『大倉邦彦物語』の刊行（後掲）と、附属図書館の「子ども向け精神文化図書コーナー」の開設を記念して、大倉山記念館指定管理者との共催により、大倉邦彦が設立した富士見幼稚園の教育活動を撮影した動画の上映と講演会を8月上旬に開催します。

開催日	演題（仮題）	講師
7月3日(土)	東亜同文書院（愛知大学）の卒業生（仮題）	愛知大学教授（交渉中）
8月7日(土)	大倉邦彦の幼児・母親教育と各種文庫（仮題）	当財団研究員
10月～11月	今昔建築サロン（建築編）	未定
11月27日(土)	岡倉天心と原三溪（仮題）	未定
令和4年2月	今昔建築サロン（自然編）	未定

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行ううえで、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。令和3年度は、大倉邦彦没後50年の節目にあたることから、記念事業として予定している子ども向けのマンガ『大倉邦彦物語』の刊行に合わせて展示会を開催します。

ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、SPレコードは歪みや破損の恐れがあり、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。

そこで、前年度に引き続き、アナログ音源のデジタル化とインターネットでの公開を進めます。

イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知るうえで貴重な情報源となります。外部機関よりの借用依頼等も多いことから、この写真類のデジタル化を進めています。令和3年度は所蔵するアルバムの中から、大倉邦彦を撮影した写真、大倉山記念館の建物内外や周辺地域を撮影した写真を中心にインターネットで公開する予定です。

ウ 沿革史資料目録のOPAC公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録が約100,000件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用も増えつつあります。しかし、これまでは目録データの検索は所内で行えませんでした。そこで、令和4年の創立90年に向けて、平成30(2018)年度より目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めているところです。令和3年度は新たに約10,000件の目録データを公開します。

エ 第42回研究所資料展「大倉邦彦没後50年記念展(仮題)」

研究や調査の成果公開の一環として、所蔵資料等の一部を順次展示しています。令和3年度は大倉邦彦没後50年にあたることから、記念事業として刊行予定のマンガ『大倉邦彦物語』のエピソードにまつわる資料や、大倉邦彦の残した書画作品等を紹介する展示会を開催します。

オ 第43回研究所資料展「大倉山記念館文化財指定30年記念展(仮題)」

横浜市大倉山記念館は、大倉精神文化研究所本館として建設されたもので、平成3年(1991)11月1日に横浜市指定有形文化財に指定されました。令和3年度は指定から30年の節目の年となることから、文化財指定30年を記念する展示会を、10月末に行われる「第37回大倉山秋の芸術祭」に合わせて開催します。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団は、東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化の研究はもとより、その研究成果を国民に提供する公益目的事業を推進しています。令和3年度も、研究成果等を心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう国民に提供していきます。

ア 研究紀要『大倉山論集』第68輯の編集・発行

当財団の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学的研究成果を、『大倉山論集』として広く公表します。当財団の研究者や外部研究者が執筆者となり、歴史、思想、宗教、文学、民俗、風俗等人文科学を中心とした論考を掲載し、令和4年3月に発行（550冊）します。国立国会図書館、アメリカ議会図書館など国内外の図書館を中心に配布する計画です。

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容等の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行します。

令和3年度は、「横浜市大倉山記念館ロケ地ガイドマップ vol. 1」（令和元年制作）の続編として、平成23（2011）年以降に大倉山記念館でロケーション撮影を行った映像作品を紹介する「横浜市大倉山記念館ロケ地ガイドマップ vol. 2」を編集・発行します。

ウ 子ども向けマンガ『大倉邦彦物語』の刊行

創業者大倉邦彦の伝記は、創立60周年（平成4年）を記念して作成した『大倉邦彦伝』がありますが、1,000ページ余りもの大部であり、内容も大人向けです。そこで、大倉邦彦没後50年の記念とともに、令和4年の創立90年に向け、次世代を担う子どもたちにも読みやすく、内容理解が容易な大倉邦彦の伝記として、マンガ『大倉邦彦物語』を刊行します。完成したマンガは、港北区内の小学生並びに大倉邦彦の生地である佐賀県神埼市内の小中学生、研究所来館者等に配布します。また、インターネットを通じて読むことが出来る電子書籍版も制作します。

エ 電子情報の発信

近年はインターネットを通じた電子情報とその重要性を増しています。そのために、当財団で所蔵する古い映像資料や音源資料のデジタル化とインターネットでの公開を進めています。令和3年度は特に次に掲げる4つの事業を実施します。

(ア) デジタルアーカイブの構築を含めたホームページ全面改定

現在のホームページの開設以降、ネット環境の急速な発達により、さまざまなサービスの提供が可能となりつつあります。またコロナ禍による外出・移動の制限から、デジタルアーカイブの重要性も高まっています。こうした状況の変化や利用者の要望に応えるべく、アクセシビリティの向上やデジタルアーカイブの充実を図るため、創立90年の令和4年に向けて、財団ホームページの全面改定を行います。

(イ) 『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

前年度に刊行した『大倉山論集』第67輯を、誰でも閲覧できるように、PDFで公開します。

(ウ) 映像作品「富士見幼稚園の一日」等の公開

マンガ『大倉邦彦物語』の刊行と、「子ども向け精神文化図書コーナー」の開設に合わせ、

大倉邦彦が設立した富士見幼稚園での様子を撮影した動画『富士見幼稚園の一日 第一巻』『富士見幼稚園の一日 第二巻』『富士見幼稚園 明朗篇』『富士見幼稚園の記録』をインターネットで公開します。

(エ)マンガ『大倉邦彦物語』の公開

マンガ『大倉邦彦物語』を誰でも閲覧できるように、電子書籍として公開します。

(再掲、3頁「1(3)ウ 子ども向け マンガ『大倉邦彦物語』の刊行」参照)

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域理解や地域文化の発展に尽力しているところです。

令和3年度も、港北区役所や港北図書館、市民サークル等と積極的に連携を図り、精神文化の普及と地域文化の発展に努めます。

(1) 他機関との連携事業

ア 大倉山記念館指定管理者

大倉山記念館指定管理者と協力して、8月のオープンギャラリーの展示会、9月と2月のオープンデイ、10月頃のタゴールソングコンサート、今昔建築サロン等(再掲、2頁「1(2)東西文化融合の研究及びその成果の普及」参照)を開催します。

イ 港北図書館及び港北図書館友の会

港北図書館及び港北図書館友の会等と連携して、地域文化に関する講演会や展示会等を開催します。

(2) 講師派遣

日吉本町地域ケアプラザの「男の！セカンドライフカレッジ」、芹沢銈介緞帳プロジェクトの「芹沢銈介 知られざる港北の宝～公会堂の緞帳をデザインした人間国宝～」等に講師を派遣します。そのほか依頼により各所へ講師を派遣します。

(3) 依頼原稿の執筆

ASA 大倉山発行『大倉山 STYLE』(発行部数 8,500)の「大好き！大倉山」、地域インターネット新聞社が運営する地域情報サイト『横浜日吉新聞』『新横浜新聞』の「わがまち港北番外編～こうほく歴史まち歩き～」に毎月原稿を執筆します。その他依頼により原稿を執筆します。

(4) 調査協力

資料所蔵者等からの依頼により、地域資料の調査や整理、聞き取りなどを行います。

(5) 見学案内

行政機関、各種団体・サークル等の依頼や、各種イベントに合わせて横浜市大倉山記念館や周辺地域の見学案内を行います。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

附属図書館は、創立者大倉邦彦が目指した東洋と西洋の精神文化の融合を追及する専門図書館として、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約 110,000 冊の蔵書を有しています。その中でも、神道・儒教・仏教等の資料群や貴重コレクションは、全国的にも学術価値の高い資料であり、それらを誰でも自由に利用出来る図書館として高く評価されています。

令和3年度も、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館を目指します。

(1) 図書館の公開

附属図書館は、原則として毎週火曜日から土曜日まで週5日一般公開します（開館時間は、午前9時30分から午後4時30分まで）。

週5日の一般公開に加えて9月と2月の大倉山記念館オープンデー、11月の大倉山秋の芸術祭、2月の大倉山観梅会等地域に根差した催事が行われる時は、臨時に開館します（9頁「(5)ウ 大倉山秋の芸術祭」参照）。

(2) 資料の収集

当財団の活動方針に即した精神文化に関する資料、特に神道・儒教・仏教や歴史の専門的資料に重点を置いて収集しています。さらに、入門書・教養書その他、専門機関や大学発行の雑誌資料等も収集・整備し、外部からでもインターネットで検索できるよう OPAC により、これを公開しています。

創立者大倉邦彦の没後 50 年にあたる令和3年度は、大倉邦彦が幼児教育にも力を注ぎ、自身が経営する幼稚園に図書コーナーを創り、富士見文庫と名付けていたことから、その精神を継承し、子どもたちが自分の生き方や心について考えることを目的とした「子ども向け精神文化図書コーナー」を開設し、資料の収集・整備・貸出を行います。

(3) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

精神文化の専門図書館である当館は、一般資料に加えて、23種約 40,000 冊(点)に研究所沿革史資料(約 100,000 点)を加えた 24 種類に及ぶ貴重コレクションを所蔵しています。貴重コレクションは、①開館に先立ち大倉邦彦が収集した資料、②大倉邦彦の人脈をもとに受贈又は購入した資料、③研究過程で収集した資料に大別できますが、その大半は他館では所蔵していない貴重な資料です。

ア 貴重コレクション書誌データの OPAC 公開

貴重コレクションは、平成 25 年度から独自に書誌データの作成を進めており、24 種類のコレクションのうち、14 コレクションについては OPAC 検索を可能にしました。残り 10 コレクシ

ョンについても、次のように継続して書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実を図ります。

- ① 平成 28 年度より開始した和装本コレクション約 9,600 冊（点）の書誌データの詳細化は、令和 3 年度に約 1,000 冊（点）の詳細化を行います。
- ② 平成 29 年度より 5 箇年計画で開始した大倉邦彦旧蔵文庫（約 3,000 冊）の書誌データ作成作業は、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料を多数発見する等大きな成果が得られました。そこで、令和 3 年度より第 2 期 5 箇年計画として、調査範囲を書庫全体に拡大して、資料調査と書誌データの整備を進めます。
- ③ 平成 30 年度より開始した研究所沿革史資料の書誌データ公開は、令和 3 年度に約 10,000 件を OPAC 公開します（再掲、3 頁「1(3)ウ 沿革史資料目録の OPAC 公開」参照）。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報システムの導入に際して、より多くの資料の OPAC 検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名の最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を進めているところです。

令和 3 年度は、閉架書庫内に残る簡易データ資料の内、約 1,500 件を詳細化し、利用者の利便性を高めます。

ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピー（電子式複写）を禁止しています。その代替措置として、複写依頼のあった資料について司書によるデジタル撮影を行っています。書誌情報の OPAC 公開を進めたことにより、外部からの書誌情報の検索が増加し、大学・研究機関・個人研究者からの複写依頼も増えています。今後も依頼された資料のデジタル撮影を進め、研究の便宜を図るとともに、創立 90 年へ向けて、撮影した写真データをデジタルアーカイブとして提供できるよう準備を進めます。

エ 資料の保全

当館の貴重コレクションには、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの貴重資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことが当館の重要な役割の一つです。

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではありませんので、書庫内のサーキュレーター稼働や、防虫のための粘着マット使用、カビ除去作業を、年間を通して行っています。さらに貴重資料は、中性紙の保存箱・封筒に入れる作業等を進めていますので、令和 3 年度も継続して保全に努めます。

（ア）和装本の保存箱作成

和装本を適切に保存するため、1 冊ごとのサイズに合わせた個別の保存箱を作成する作業を、平成 28 年度からボランティアの協力により開始しました。これまでに約 1,300 冊分の保存箱を作成しており、令和 3 年度もボランティアの協力を得て進めていきます。

（イ）資料保存箱設置事業

令和 3 年度は、個別の保存箱作成が難しい資料について、一つの棚全体を一つの中性紙の

保存箱に入れて、貴重資料の保全を図る作業を実施します。

(4) 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が強く求められています。専門図書館協議会、神奈川県図書館協会、近隣図書館、株式会社ブレインテックなどの団体・図書館等主催による研修に積極的に参加し、司書のスキルアップを図るとともに、他機関との情報交換を行い、連携を深めることで、情報提供機能を強化し、利用者のニーズを踏まえた専門性の高いレファレンスサービスの提供を図ります。

イ インターネットの活用

当館の利用者は、全国の研究者と、近隣住民に大別されます。研究者はインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館して一般書を利用します。

このような利用者の多様な要望に応えるため、所蔵資料の検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧申込、レファレンスサービスといった図書館サービスの提供にインターネットを活用し、利便性の向上を図ります。

(5) 利用促進のための広報活動

ア 附属図書館利用案内リーフレットの改訂

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめたリーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行なっています。令和3年度は、資料整理や OPAC 公開の成果等最新の情報を反映した改訂版を発行し、来館者等に配布します。

イ ホームページでの情報発信

ホームページでの定期的な新着図書の紹介をはじめ、資料展示・催し物の案内情報を随時発信します。

ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧室の小スペースやガラスケースを利用して、資料の展示を行い、閲覧利用や貸出につなげます。

【関連展示】

当財団で開催している大倉山講演会や、公開講演会その他のイベント（1～4頁「1 精神文化の研究及びその成果の普及」参照）に合わせて、各イベントの広報や内容理解を深めるため、関連資料の展示を行います。

【テーマ展示】

豊かな心を育む資料や貴重な資料の展示を行います。

【タゴール月間記念展示】

インドの詩聖タゴールの誕生月と、昭和4年（1929）にタゴールが来日した際の大倉邦彦邸宿泊が5月であったことを記念して、当財団は毎年5月をタゴール月間としています。令和3年度も5月に「タゴール文庫」から資料の展示を行います。

【修復が完了した資料の展示】

当館の貴重コレクションには、江戸末期の人別帳や御用留等、生の資料を含む学術的価値の高い資料があります。これらの一部は、経年劣化等で長年閲覧停止にしていたが、前年度に修復しましたので、修復が終了した「金沢甚衛旧蔵資料」を中心に展示を行います。

エ 大倉山秋の芸術祭

近隣の人々が集う大倉山秋の芸術祭は、多くの市民が訪れます。地域住民との触れ合いの場となるよう、イベント期間中の日曜日・祝祭日には臨時開館し、日頃見ることのできない貴重資料の展示や、図書館主催のワークショップ等を実施します。

オ 図書館総合展

毎年開催される全国規模の図書館総合展は、専門業者から図書館に関心を持つ一般の方まで多くの来場者があり、インターネットでも公開されています。総合展には、各種専門図書館紹介コーナーがあり、当館も利用案内リーフレットの配布やパネル展示、PR映像の制作・公開等の広報活動を行ってきましたので、令和3年度も継続して参加し、効果的・効率的なPR手法の展開に役立てます。また、創立90年にあたる令和4年度には、自館の特徴をアピールするポスターセッションに参加することを目指し、令和3年度はその準備を進めます。